

大阪市立大学大学院文学研究科

3 ポリシー

I. 大学院前期博士課程

1. 学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

文学研究科は、大学院前期博士課程において、①人文科学や行動科学の分野において、先端的知識と方法を身につけ、独創的研究をみずから行いうる人材、②地域の教育に貢献し、都市が抱えるさまざまな問題の解決に応えうる高度専門職業人、③生涯学習への意欲をもち、人間、社会、文化、言語に対する深い理解を通して、国際社会・地域社会においてさまざまな文化的活動を担うことのできる高度教養人を育成します。

くわえて、各専攻の人材育成の目標を、以下のように定めます。

哲学歴史学専攻：人間の社会と文化の構造・発展を明らかにし、人間のあり方を歴史と文化のなかに追求することを目的とします。人間文化の基礎を研究する哲学と歴史学を統合した教育研究体制を備えることで、人間の社会とその文化の本質と普遍的価値、さらにその変容を明らかにすることを目指します。専門分野への深い知識に加えて、関連分野にも視野を広げられる研究者、広い知識と教養をもった専門職業人を養成します。

人間行動学専攻：人間行動の特性や人間と社会および文化の関係を、とくに社会問題、教育問題や文化摩擦など現代社会が抱える諸問題を視野に入れて、総合的、学際的に捉えることを目的とします。フィールドワークや実験という行動科学の方法論を基礎に、実証的なデータに基づく分析と理解や理論化を重視します。人間行動に関する実証的な研究方法を修得させることによって、現実の社会や人間を客観的に観察する能力を涵養し、研究職のみならず、高度な専門的知識と技術をもった人材を養成します。

言語文化学専攻：言語にかかわる文化現象の全領域、すなわち、言語、文学、文化およびその関連領域を、言語を通じて根源的に解明することを目的とします。従来の言語単位の専門分野にくわえ言語応用、表現文化という新たな分野を増強し、都市化、情報化、国際化の時代にふさわしい教育研究を実現します。さらに西洋古典学、言語学などの分野をも含めた総合的な言語文化学を修得させることで、鋭い言語感覚と言語運用能力を備えて、研究者、専門職業人を問わず国際社会において活躍しうる人材を養成します。

アジア都市文化学専攻：東アジア・東南アジアを対象に、都市文化の現状と特性、その形成過程、さらに今後の可能性について、総合的、比較文化的に考究することを目的とします。伝統文化研究、現代都市文化論、文化人類学、芸術学、ポピュラー文化研究、観光研究など多岐にわたる分野を学ばせることで、アジアの諸問題を複合的にとらえる視点を涵養します。研究者、専門職業人のいずれの進路においても、これからのアジアを牽引することができる人材を育成します。

上記の人材育成の目標を達成するために設置された教育課程において、所定の単位を修得したうえで修士論文を提出し、厳正なる審査に合格した者に、文学の修士（文学）の学位を授与します。

2. 教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

文学研究科は、人文科学・行動科学の専門領域に関する高度な専門的知識を培います。人文科学・行動科学の専門領域において明確な問題意識をもって研究を行える能力を培います。

以上の目標を達成するため、文学研究科は次の4点を重視します。

- ①高度な知識と総合的な問題解決能力を身につけることを目標に、学生が所属する「研究分野」を考慮に入れた諸科目をバランスよく履修できるように、「専攻共通科目」と「分野専門科目」を配置します。
- ②修士の学位論文の作成のため、指導教員等による「研究指導」を履修し、教員による助言を2年間にわたって受けるようにします。
- ③若手研究者として国際的に活躍できる能力を養うため「インターナショナル・スクール授業科目」を用意しています。
- ④全学に共通する大学院科目を修得単位として認定します。

3. 入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）

〈求める学生像〉

人文科学・行動科学の専門領域に関する明確な問題意識と専門的知識を有する人
社会的経験をふまえて人文科学・行動科学の専門領域の研究を志す人

〈入学者選抜の基本方針〉

【一般選抜】

筆答試験では外国語の読解力・表現力と専門科目の習得度を、口述試験では提出された研究計画書の適確性や卒業論文の達成度を確認し、学士課程における成績とあわせて総合的に評価します。

【外国人留学生特別選抜】

日本語の能力証明書では日本語の基礎能力を、筆答試験では外国語の読解力・表現力と専門科目の習得度を、口述試験では提出された研究計画書の適確性や卒業論文の達成度を確認し、学士課程における成績とあわせて総合的に評価します。

【社会人特別選抜】

筆答試験では、専門科目の習得度を、口述試験では提出された研究計画書の適確性を確認し、総合的に評価します。

II. 大学院後期博士課程

1. 学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

文学研究科は、大学院後期博士課程において、①人文科学・行動科学の最先端の研究課題を創造的に探究する高度な研究能力を備えた研究者、②国内外の教育研究組織や機関と連携し、人文科学・行動科学の国際的、学際的な研究を主導的に推進する研究者を育成します。

くわえて、各専攻の人材養成の目標を、以下のように定めます。

哲学歴史学専攻：人間の社会と文化の構造・発展を明らかにし、人間のあり方を歴史と文

化のなかに追求することを目的とします。人間文化の基礎を研究する哲学と歴史学を統合した教育研究体制を備えることで、人間の社会とその文化の本質と普遍的価値、さらにもその変容を明らかにすることを目指します。専門分野への深い知識に加えて、関連分野にも視野を広げられる研究者、広い知識と教養をもった専門職業人を養成します。

人間行動学専攻：人間行動の特性や人間と社会および文化の関係を、とくに社会問題、教育問題や文化摩擦など現代社会が抱える諸問題を視野に入れて、総合的、学際的に捉えることを目的とします。フィールドワークや実験という行動科学の方法論を基礎に、実証的なデータに基づく分析と理解や理論化を重視します。人間行動に関する実証的な研究方法を修得させることによって、現実の社会や人間を客観的に観察する能力を涵養し、研究職のみならず、高度な専門的知識と技術をもった人材を養成します。

言語文化学専攻：言語にかかわる文化現象の全領域、すなわち、言語、文学、文化およびその関連領域を、言語を通じて根源的に解明することを目的とします。従来の言語単位の専門分野にくわえ言語応用、表現文化という新たな分野を増強し、都市化、情報化、国際化の時代にふさわしい教育研究を実現します。さらに西洋古典学、言語学などの分野をも含めた総合的な言語文化学を修得させることで、鋭い言語感覚と言語運用能力を備えて、研究者、専門職業人を問わず国際社会において活躍しうる人材を養成します。

アジア都市文化学専攻：東アジア・東南アジアを対象に、都市文化の現状と特性、その形成過程、さらに今後の可能性について、総合的、比較文化的に考究することを目的とします。伝統文化研究、現代都市文化論、文化人類学、芸術学、ポピュラー文化研究、観光研究など多岐にわたる分野を学ばせることで、アジアの諸問題を複合的にとらえる視点を涵養します。研究者、専門職業人のいずれの進路においても、これからのアジアを牽引することができる人材を育成します。

上記の人材育成の目標を達成するために設置された教育課程において、所定の単位を修得したうえで博士論文を提出し、厳正なる審査に合格した者に、文学研究科は博士（文学）の学位を授与します。

2. 教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

後期博士課程では、人文科学・行動科学の専門領域において深い学識にもとづき独創的な研究を行える能力を培います。研究成果を国内外に発信できる情報発信能力を培います。若手研究者として国際的に活躍できる能力を養うための「インターナショナル・スクール授業科目」については、積極的な履修を勧めます。全学に共通する大学院科目は修得単位として認定します。

博士の学位論文の作成のため、指導教員等による「論文指導」を3年間にわたって履修し、教員による助言を継続的に受けるようにします。また、「論文指導」4単位修得後（通常2年次）の前期セメスター開始時「博士論文作成計画書」を指導教授に提出しなければなりません。博士の学位論文については、3名の教員からなる審査委員会による審査を実施します。

3. 入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）

〈求める学生像〉

人文科学・行動科学の専門領域に関する明確な問題意識と専門的知識を有する人
社会的経験をふまえて人文科学・行動科学の専門領域の研究を志す人

〈入学者選抜の基本方針〉

【一般選抜】

筆答試験では外国語の読解力・表現力と専門科目の習得度を、口述試験では提出された研究計画書の適確性や卒業論文の達成度を確認し、学士課程における成績とあわせて総合的に評価します。

【外国人留学生特別選抜】

日本語の能力証明書では日本語の基礎能力を、筆答試験では外国語の読解力・表現力と専門科目の習得度を、口述試験では提出された研究計画書の適確性や卒業論文の達成度を確認し、学士課程における成績とあわせて総合的に評価します。

【社会人特別選抜】

筆答試験では、専門科目の習得度を、口述試験では提出された研究計画書の適確性や修士論文の達成度を確認し、総合的に評価します。